

第3章

地球市民学探究講座

佐 光 美 穂

1. 目 標

本講座も、学校特設科目であるSLPⅡとの連関を考
えて設計した。SLPⅡの地球市民学は高校二次に一
単位履修する。本講座はこの内容を更に発展させ、大学
の学びへの接続を目指した。本講座の目標は、世界のグ
ローバル化に伴うさまざまな問題や課題について、生徒
に認識させ、地球市民としてどのような役割が期待され
るのかを生徒自ら発見することである。そのために、学
際的な観点から、様々な知識を統合し、最終的には地球
市民として、個人のレベルで何ができるかを考えさせ
る。これらの目標に照らした生徒に身につけさせたい学
びの力は、人文・社会科学的な課題の発見と課題解決
力、社会科学における論理的思考力、科学的な探究力
(データの解釈・分析・批評)、自覚的なキャリア意識の
形成である。

2. 学習方法

本講座の特色は、グループまたは集団課題を積極的
に取り入れることで、講義で学んだことを、ワーク・アク
ティビティを通じて実践的に、また自主的に応用する力
を培う。アクティビティの一例として、集団討議やグ
ループ・シミュレーションなどが実施された。

3. 実践内容

第一章章末の付表参照

4. 成果と課題

各回の授業後アンケート結果を検討する。質問内容と
集計方法は前節生命科学探究講座と同じである。概況と
しては、生徒はよく理解し、高い意欲を持って授業に取
り組んでいると分かる。

質問1～3について、「1」「2」と答えた生徒が9割
前後に達した。これも生命科学探求講座同様、三年間連
続の増加である。生徒は授業内容に大変高い関心を寄せ
ていることが分かる。

次に質問4についてである。これも年々伸びており、
「4」や「5」と答えた生徒はほぼいないものの、「1」
「2」と答える生徒が7割台に留まった。大学の学びと
のギャップが意識されたせいだろうか。

最後に質問5、意欲的に取り組めたかについてであ

る。「1」「2」と答えた生徒は8割5分程度で、高い
水準とは言えるが、今年度「4」と答えた生徒が僅かに
増えた。人数で言えば延べ24名である。その理由を自由
記述から拾うと、「早退・遅刻してしまった」「途中眠っ
てしまった」という、授業の内容というより、自己の側
に理由があるものが12名、半分を占める。その他は、話
し合いに参加するのがあまり得意でないためが延べ4名
(同一生徒が複数回答している)、残りの4名について
は授業内容についていけなかったためとしている。

もっとも、遅刻・早退が多かったのは、講座のスケ
ジュールの問題もある。定期開講ではなく、間が一月
空く期間もあれば、同日の午前・午後と連続することも
ある。これが一部生徒の授業忘れにつながったようだ。
また居眠りに関しても、二時間の授業時間に休憩がな
かった回があったり、午前午後連続の日があったため、
生徒の疲れが出やすかったことが考えられる。開講日程
については講師の先生方のご都合により、こちらの希望
通りに授業が組めないこともあるが、少なくとも休憩時
間の確保は、運営の仕方次第である。来年度には改善し
たい。

質問1 今日の授業内容はよく理解できたか

| | 度数 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 平均 | 標準偏差 |
|------|-----|-------|-------|------|------|------|------|------|
| 2010 | 367 | 40.1% | 48.8% | 9.8% | 1.1% | 0.0% | 1.71 | 0.69 |
| 2009 | 272 | 35.3% | 51.8% | 6.3% | 6.3% | 0.4% | 1.85 | 0.82 |
| 2008 | 375 | 29.6% | 62.1% | 6.7% | 1.6% | 0.0% | 1.8 | 0.6 |

質問2 今日の授業内容に興味を持てたか

| | 度数 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 平均 | 標準偏差 |
|------|-----|-------|-------|------|------|------|------|------|
| 2010 | 367 | 57.8% | 35.7% | 5.7% | 0.5% | 0.0% | 1.5 | 0.61 |
| 2009 | 272 | 49.6% | 41.9% | 4.8% | 2.9% | 0.7% | 1.63 | 0.77 |
| 2008 | 375 | 47.7% | 45.9% | 5.6% | 0.5% | 0.3% | 1.6 | 0.6 |

質問3 何か新しい発見することができたか

| | 度数 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 平均 | 標準偏差 |
|------|-----|-------|-------|------|------|------|------|------|
| 2010 | 367 | 57.8% | 37.9% | 3.5% | 0.5% | 0.0% | 1.54 | 0.64 |
| 2009 | 272 | 46.7% | 43.0% | 7.0% | 3.3% | 0.0% | 1.67 | 0.75 |
| 2008 | 375 | 46.1% | 46.4% | 7.2% | 0.3% | 0.0% | 1.6 | 0.6 |

質問4 授業後自分でも調べてみたいという気持ちが生れたか

| | 度数 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 平均 | 標準偏差 |
|------|-----|-------|-------|-------|------|------|------|------|
| 2010 | 367 | 30.8% | 44.7% | 19.3% | 1.9% | 0.0% | 1.5 | 0.61 |
| 2009 | 272 | 26.8% | 45.6% | 21.3% | 5.5% | 0.7% | 2.08 | 0.87 |
| 2008 | 375 | 21.9% | 49.6% | 26.1% | 2.1% | 0.3% | 2.1 | 0.8 |

質問5 授業に意欲的に取り組めたか

| | 度数 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 平均 | 標準偏差 |
|------|-----|-------|-------|------|------|------|------|------|
| 2010 | 367 | 40.9% | 44.1% | 7.6% | 6.5% | 0.0% | 1.54 | 0.64 |
| 2009 | 272 | 39.0% | 48.9% | 7.7% | 4.4% | 0.0% | 1.78 | 0.77 |
| 2008 | 375 | 34.9% | 56.3% | 6.7% | 2.1% | 0.0% | 1.8 | 0.7 |

以下に、各回の生徒の感想を抜粋して挙げる。

第一回「グローバル化と他者理解」

「他人の気持ちになって考えるということは、他方からもものを見るということ。つまり、自分の視点を変えてみるということがとても面白かった。グローバリゼーションが進んでいる今だからこそ、“考える”ということにもっと考えを深めなければいけないと思った。」「好きなものの情報が与えられるとさらに好きになるが、嫌いなものの情報が与えられるとさらに嫌いになるという事。また、逆転の発想が大事だという事がよく分かりました。人の身になって考える時、自分の事を考える時、新たな情報・変化を考える時などに活用したいです。」

第二回「世界の貧困」

「最後の方のクイズは印象に残りました。インターネットのことやサブプライムローン問題など、日常でよく耳にするのに中身を知らなかったことが少しは理解できたので良かったです。大学選びについても参考になりました。」「ワークショップで自分が考えた貧しい・豊かが、他の人だと逆になっていたり、自分では思いつかなかった解答が出てきて面白かった。ネコ缶がタイ産だったとは思わなかったし、結構意外なところから輸入されているということを知れて楽しかった。」



第三回「多文化共生社会を誇るインド(1)」

「“宗教”って今まで関わることもなかったし、そんなに興味があることでもなかったけど、今日を聞いて奥が深いなと思いました。今さらかもしれないけど、宗教は1つ1つ違うし、いろんなことを変えてしまう重要なものだなと思いました。」「2時間と思えない？内容の濃い授業で楽しかった。色んな角度から宗教・言語・文化・カーストが見れてよかった。多文化・多言語・多宗教であるインドだからこそ名前前で特定ができるというのがすごいと思った（たくさんの中から特定できる仕組み）」

第四回「学校（教育）に行く意味を考える」

「先生の本を拝見したことがあり、今回の授業をととても楽しみにしていました。私もすごく発展途上国における国際開発を教育面から見てみたいという関心があるので、今回はとても有意義な時間を過ごすことが出来ました。最後の方で、開発や援助する先進国の人が現地の人々の考えに思いつけないことが重要という言葉が印象的でした。」「一番最初に学校に行けない人・行かない人、また、学校に行くといいいことなどをグループで話し合ったことが面白かった。教育を長い目で見れば国の発展につながるというのを聞いて、自分は自分のためだけに学習しているんじゃないんだと思った。いろいろな写真が出てきて、特に子どもたちが大勢で授業を受けていた写真が印象に残った。」

第五回「国際協力と地球市民」

「日本はずっと裕福だと思っていたけど、フリーターが多かったり、貯金がない家が4世帯に1つだったり、日本の貧しさを知ってびっくりした。カンボジアでのシミュレーションは恥ずかしかったけれど、全く何も分からないし、伝えられないっていうことがすごく実感できた。」「webbingとかが面白かったです。ブラジルの子供というテーマから、いろんな方向へ見ていくことで、日本の雇用とかにもつながったりして、世界がつながってるっていうのが印象に残りました。」

第六回「東南アジアと国際教育協力」

「インドネシアは発展途上国で全然教育も進んでいないものだと思っていたけど、実は以外に豊かで、人々が皆、語学能力が高いというのにすごくびっくりした。また、人づき合いの良さも豊かで、そういう面では日本は学ばなければならないなと思った。」「最後の方で「教育は結果が出るのは遅い」と言っていて、本当にその通りだと思ったし、だから政府としては結果が早く目に見えるものがほしいと思うから、あまり教育にお金をかけないのかなと思った。それと、経済と教育は深い関係があるなと改めて思った。」

第七回「多文化共生社会を誇るインド(2)」

「自分はグルミン銀行の興味を持っているので、今回のインドの自助機関（Self Help Group）の話はとても面白かったです。また、SHGと政治の関係は、SHGの存在が政治的に利用されていると思うとあまり良くないと思うが、SHGが支援されることによって女性の地位が上がり社会進出が早まれば良いと思う。」「先生の最後の解説がとても印象に残りました。政府の意図とはまた違って、いろんなメリットがあるSHGはすごく画期的だと思ったし、日本でも働く場のない人々を対象に同じようなことができないのかなと思いました。」



第八回「日本人の英語教育に対する学習不安」

「今まで英語が苦手で本当に嫌いになってしまっそうでとても不安だったけど、自分と同じ不安を抱えている人は世の中にたくさんいたんだと思ったら気が楽になっ



た。英語をがんばってみようかなと思えた。」「グループワークが楽しかった！楽しみ方とかを、もっと考えていけたらいいと思った。何だかんだ言っても、これからの時代、英語は必要不可欠になると思うし、だからこそ不安軽減は必要だと思います！」

第九回「国民的ステレオタイプ」

「グループワークのそれぞれの発表が、違う人がやっているのに同じような結果になって面白いなあと思いました。それはステレオタイプなのか、と授業を聞いて納得しました。」「偏見が起こる原因が分かって良かった。確かに、自分も「グループ」として人を見るのがよくあるなあと思った。自分の親しい人をひいきしてしまうのは若干しょうがないとは思いますが、やっぱりみんなに平等に接しなきゃなあと思った。」

第十回「地球市民学の基礎」

「地球市民育成の文化的感受性トレーニングにもあたる青い眼茶色い眼実験は面白かった。子どもだけでなく大人にも同じことがいえるとは。とらえ方は多少違うが、どちらも自身の差別意識を改められていて良かったと思う。現代の青い眼茶色い眼実験が出てくることを期待したい。」「最後に見たビデオにとっても感動した。世界中の人に、あのビデオを見てほしいと思った。日本が文化絶対主義だということに驚いた。文化相対主義であってほしかった。」

これらのコメントに見えるように、生徒にとっては初めて触れる事実が多く、時には重い現実戸惑いながらも、自分自身で考えるよいきっかけとしたことが分かる。自身に引きつけて捉えようとする姿も多く見られた。講師の先生から提供される豊富な資料、情報は、授業の目標1の科学的探求力や、4の多元的思考力を磨く機会となった。グループワークやディスカッションの機会も多く、授業の目的5、課題解決力を磨く機会にもなった。仲間と共同して問題に取り組んだ今回の経験が、将来、地球市民として地球規模の問題解決に取り組む素地となることを期待する。